やまなし自然首都圏構想研究会　二拠点居住推進部会
第２回ワーケーションワーキンググループ議事録

日時：令和２年１１月２５日（水）14:00～16:00
場所：山梨県庁防災新館　４０１会議室（テレビ会議）

◆出席者：【座長】

丸山　　裕貴　東京大学未来ビジョン研究センター　受託研究員

【委員】※50 音順（市町村は建制順）

青柳　　文人　山梨県旅館ホテル生活衛生同業組合　副理事長
佐藤　　優　　（公社）やまなし観光推進機構　観光産業支援部長
田中　　敦　　山梨大学生命環境学部　地域社会システム学科　学科長
　　観光政策科学特別コース　教授
田中　佐記子　北杜市役所　観光課長　小林　晋
　　代理　主幹
土屋　　正和　笛吹市役所　観光商工課　主査　山形　信寛
　　代理　（一社）笛吹市観光物産連盟　事務局長
望月　　昌也　身延町役場　観光課　副主幹
朝比奈　伸次　富士河口湖町役場　観光課　係長

【庁内メンバー】

リニア交通局　地域創生・人口対策課長、森林環境部　森林環境総務課長、産業労働部　労政雇用課　課長補佐、観光文化部　観光資源課長、農政部　担い手・農地対策課長

【オブザーバー】※50 音順

大川　　正勝　（株）JTB 甲府支店　支店長
北辻　巧多郎　（株)LIFULL 地方創生推進部　LivingAnywhereCommons グループ　企画・営業　WorkingAnywhere プラットホーム構想担当
小林　　宏至　（株）日本旅行甲府支店　支店長
山口　　春菜　（株）パソナ JOB HUB ソーシャルイノベーション部 ワーケーションプロデューサー

【事務局】

リニア未来創造・推進課長

◆会議次第：１　開　会
２　出席者紹介（１分）（新規出席者のみ）
３　議　事　（１１５分）
〇ワーケーション推進のターゲットの設定・具体的取組について
４　閉　会

〇議事

【意見交換①　二拠点居住につなげるためのワーケーションの推進について】

丸山座長

- 本日のワーキングに当たり、事務局の方々が、私や田中委員と打ち合わせ行う中で、山梨県が今後推進すべき現象としては大きく三つあるのではないかと話をしている。
- まず１点目が、二拠点居住につなげるためのワーケーション。
- ２点目は、新たな企業誘致につなげるためのワーケーション。
- ３点目が、観光地の再活性化につなげるためのワーケーション。
- ここからこの３つについて深掘りしていきたいと思う。
- まず二拠点居住につなげるためのワーケーションを推進するに当たり、必要となる具体的な取り組みや、適した地域について、意見交換をしたいと思う。
- まず田中委員からご意見をいただければと思うがいかがか。

田中委員

- ワーケーションへの期待が急速に高まる中で、その目的が何なのかがわかりにくくなり、目的を一つに絞ることが難しくなっている印象。
- そうした中で、山梨県のワーケーション推進のターゲット設定として、①二拠点居住につなげるためのワーケーション、②新たな企業誘致につなげるためのワーケーション、③観光地の再活性化につなげるためのワーケーションの３つを想定していると承知しているが、他地域の事例と比較しても、特に①が特徴的な取組ではないか。
- この背景には、まず、首都圏に非常に近いという山梨県の位置的な優位性があり、実際に北杜市や大月市等で、二拠点居住に関連した動きが出つつある。また、コロナ禍の中で、リモートワークが急速に広がる中で、都内在住者にいきなり地方へ移住してもらうのは難しいとしても、ワーケーションがそのきっかけになるかもしれないという仮説があるものと思う。
- ただ、実際の推進にあたっては、様々な課題が想定されるため、ワーケーションをしようとしている人たちのペルソナも含め、1 丁目 1 番地である二拠点居住につなげるためのワーケーションの推進について議論していきたい。
- 本日は、オブザーバーの LIFULL の北辻氏、パソナ JOB HUB の山口氏にも参加いただいているので、専門的なご意見をぜひお聞きしたい。

丸山座長

- 今話があったように、大月エリアで進んでいるようなところが、今後推進していくに当たり、どのような具体的な課題が浮かび上がっていて、どのような方々を、ターゲットにしていくかというあたりについて、今田中委員から話があったように、ご意見いただければ大変ありがたいがいかがか。

・　今実際にワーケーションの取り組みを進める中でどんなユーザーの方々が多いのか。
・　私の周りはちょうど 30 歳前後で、独身であればすぐ行きやすいのかなと思いつつ、小さいお子さんがいる方々とかも、積極的にワーケーションを取り入れている例は多いというのは私の周りの感覚。

オブザーバー　北辻氏

・　今、我々は山梨でLivingAnywhwreCommonsという二拠点居住の拠点を構えているが、前回の会議から変わったところでお伝えすると、ワーケーションをやってみようという企業が増えてきた。企業の中でワーケーションというものがわからないから、とりあえず試してみたいというお問い合わせが増えてきた。サラリーマンの方、ビジネスマンの方が部署で来るっていうシーンが増えてきたのかなというのが１点目。
・　２つ目が、寒くなってきたので、暖かい方がいいというような季節要因を感じている。
・　どちらかというと恒常的に通うというより、お試しというか、どういうものなのか体験をするというところが増えてきているという認識がある。
・　やはりご家族がいるとなかなか難しいというのは、１つのご意見として出ているので、この辺りどのようにフォローされるか、まさにターゲットをどこにするかによって、打ち手が変わってくると思うので、ご意見できればと思っている。

オブザーバー　山口氏

・　今の北辻オブザーバーのお話にかぶせるところではあるが、今、弊社にお問い合わせが増えている企業が大きく分けて２つあり、企業の人事の方がワーケーション制度として企業に導入する際に、どのような制度設計が必要なのか分からないので、まず自分で体験をしてみて、その上で制度設計をしていきたいというようなお話をいただくケースが１点目。
・　２点目が、最近コロナで東京にいるのが、かなりリスクが高いというところで、パソナグループが本社機能の一部を淡路島に移転するということもニュースで取り上げていただいたが、本社機能の移転や、サテライトオフィスの設置を考えている企業からの問い合わせも増えている。
・　本社機能の移転や、サテライトオフィスの設置というのは、おそらく移住をしていくということは現状まだハードルが高くて、今日のテーマの１つでもあると思うが、二拠点居住をしながら、東京と地域を行き来して、ワーケーションのように働くことで、コロナのリスクヘッジ、ＢＣＰの観点から、問い合わせいただくケースが最近増えているというところを感じている。現時点で、東京都、大阪府、北海道等もコロナの大変な状況だとは思うが、企業自身も、自分たちが感染リスクの高い地域にいるので、山梨県等、近隣であまりまだ感染者がいないような地域に行ってしまうのがいいのかどうかというところで非常に悩まれている。このため、次年度以降、コロナの状況

がどうなるかわからないが、地域の状況も踏まえて企業の制度設計としてしっかりしていきたいというようなお声をいただいているのが現状。

丸山座長

・　やはり人事系の部署や、本社機能の一部移転といったところで検討されている企業が増えている。北辻オブザーバーも山口オブザーバーも、どちらかというと to B、企業を相手にお話される機会が今多いのではないかと思うが、to C というか、対個人という視点で、オブザーバーの大川氏、小林氏からお話を伺えるとありがたいが、いかがか。

オブザーバー　小林氏

・　新潟県の妙高市のツアーを当社でご案内をさせていただき、この事例を参考に、函館においてフリーで募集ツアーを作ったところ、先週、募集人員満席で来ていただいた。その中には、様々な企業の方がいて、参加人数としては、ＩＴ関連の方々と、個人で動ける方、起業している方が多かった。

・　内容はどちらも目指すところは二拠点居住ということで、函館の場合は、飛行機１本で、1時間半で移動できるという、所要時間的には山梨県と同様な環境の場所。山梨県の場合は、中央線の特急等で移動もできる距離であり、前後の時間は無駄がないが、今回は、函館でも十分という形で興味関心のあるＩＴ企業が非常に多かった。今後、一般的な大企業であっても、先ほどの山口オブザーバーのお話のように、どちらかというと首都圏にはもうこれ以上、人を多く置けないというような状況も多く見られ、各社が研究をされて、今後そこに取り組んでいくという様子が伺えた。

丸山座長

・　ＩＴ企業は、どちらかというと個人事業主に近い方がイメージとしては多いのか。

オブザーバー　小林氏

・　社員はどんどん増えていき、いろんな形で、これから大きくしていく中で、都心で人数を増やしていくよりは、各地でそれぞれのキーを作って、広げていくという考え方の方が多かった印象。

オブザーバー　大川氏

・　先ほどお話あったが、ワーケーション導入支援事業ということで、当支店の方で担当させていただき、ＪＴＢ総合研究所も入って進めているという段階。

・　私はオブザーバーということで、皆さんのご意見を伺って、それをまた担当にフィードバックしながら活かしていくということを、今回新しくこのワーキンググループ

に参加する中でのミッションができたと思っている。

- 弊社で取り組んでいることで言うと、どちらかというと個人の方はアプローチしていなくて、各自治体の企業型のふるさと納税を活かしたワーケーションの導入に力を入れ出している。特に各自治体がふるさと納税の企業版を使う上では、国に申請を上げなければいけないが、その申請をワーケーションの整備とか、そういった事業の展開ということを認定されれば、それに対して企業が納税をしていく。その企業のセールスを私どもの東京の法人部隊が、大企業を中心に営業してマッチングをしていくというようなことを今、動き出しているところ。
- その中でいろいろとセミナーも行っているが、大企業のポイントとしては、先ほどからお話のあったとおり、今まで取り組んでいないもので、それがどれだけ企業にとってメリットがあるかというのは見いだしづらいところがあると聞いている。
- 例えば、本社機能とか、総務系であれば、発信しやすいとい思うので、まずはそこで体験をしてもらうということと、あとは、外部の物差しで、ワーケーションをすれば、これだけ作業効率が上がったとか、結果が出てきたとか、営業成績が上がるとか、そういった目に見える何かが必要かなという気がしている。

丸山座長

- 今まさにワーケーションの効果といったお話が出たが、田中委員いかがか。

田中委員

- ワーケーションの効果に関連して、現実的には、例えばヨーロッパのワーケーションの研究を見ると、バケーションの中でワークをすることによって、バケーションに阻害があるのではないかという研究もあり、純粋に仕事の効率化ということだけでは語られてはいない。
- 日本におけるワーケーションの効果を、企業の側から考えると、有給休暇の取得率が、日本は、いろいろ統計からもわかるように圧倒的に低い。また、どうしても外せない会議や、日々のルーティーンワーク等により長期休暇が取りにくい状況があり、家族がいる場合には、夫婦双方の仕事の予定や子供の予定も考慮するとさらに困難となる。
- こうした問題について、ワーケーション制度を入れることによって、解決できる可能性がある。企業にとっては、従業員がいかに安心安全で、かつ、モチベーションを高くいられるかということが重要な観点と思うが、休暇取得による効果については、すでに様々な研究がされているところ。
- また、業務遂行の面から見ても、例えば大切な会議に、代理出席ではなく、出席すべき人自身がオンライン出席することで議論が進んだり、間接的な業務（引継ぎ等）の減少であったり、休暇から戻ってきた時に断絶がなく、業務がスムーズに進んだりと

いったメリットがあると考えられる。この点について、調査等により、国や学術機関等が見える化することにより、企業のハードルが少しずつ下がってくるのではないか。

- さらに、ＢＣＰの観点からは、普段からワーケーションを実践していれば、いろいろな場所で仕事をするということについての経験値も高まる。
- このようにワーケーションを通じて、様々な効果が複合的に得られることを理解し、従業員が実践できるようにするために、まず最初の入口として従業員がワーケーションを利用できるような制度の構築が重要。

丸山座長

- お話の中にあった有給休暇の取得率というものは、私の出向元である三井不動産でも非常に言われていて、年間 10 日間取るようにと言われている中で、我々若手からすると、頼むから上司が休んでくれと。上司が休まないと、仕事は減らないというか、ずっと動き続けるので、いかに上司を休めるかというところを意識し、まさにこれからいろんなワーケーションを進めていく中で、作業効率や仕事の成果、そのあたりの見える化の支援をしていって、ワーケーションという取り組みをより普及させていくという話だと思う。
- 続いて、二拠点居住につなげるためのワーケーションを推進するに当たり必要となる具体的な取り組みや、推進に適した地域について、ぜひ委員の方々に議論していただきたい。

佐藤委員

- 二拠点居住を推進していくということで、前回もお話したが、例えば、地域によっては姉妹都市とか、友好市町村とか、連携、提携を結んでいる市町村があるだろうし、例えば北杜市には、他地域の町の保養所等もあると思う。こういうものがきっかけとなり、もしくは一番早いのではないか。当然、相手も、こちらの山梨の地域も知っているということもあるかと思う。認知度の高いところは、知っているところには来やすいとか、何かあるときには来やすいというところもあるし、ＢＣＰも含めて、そういうようなところに最初にアプローチする方がよいのではないか。
- 先ほど企業という話もあったが、企業価値、効率性、メリットというところをトータルで考えないとなかなか動きにくい。丸山座長も民間企業の出身ということなので、おわかりかと思うが、私も民間企業出身だが、それよりも、早く友好市町村とかへアプローチを進めていくことでブランド化はたくさん起きる。手っ取り早く、みんなが山梨に来やすいという雰囲気を作るためには、そういうところからアプローチしてはいかがと思う。

青柳委員

- 昨日同業者と集まる機会があり、ワーケーションの話をしていたが、我々は甲府市の旅館組合なので、甲府市の中でワーケーションをするのは大変だと感じている。
- 北杜市や富士河口湖町で誘致するのは魅力的なことだと思う。
- ただ、インフラについて、大雪が降った時、東京オリンピックがあったときに、陸の孤島になるのではないか。2019 年にも台風で切断されていて、これをどうするのか。
- ワーケーションはいいとは思うが、インフラとか交通網とかをどうするかのかを考えていくことも必要だと思う。

丸山座長

- まさに今北杜市等、エリア的なお話が出たので、ぜひ自治体の方に、最近の取り組み事例や、こういった問い合わせが増えている等のお話を伺えるとありがたい。
- やはり、今青柳委員からご意見いただいたように、ワーケーション、二拠点居住といったものを考えると、まず、シンプルに考えると、東京で働いている方からすると東京には無い、自然だったり、緑だったり、空気が綺麗だったりとか、目の前に山が広がっているとか、その中で、ある程度リフレッシュしながらも仕事ができるということがある。
- 今お話の中でインフラという話もあったが、オフィスがあり、Ｗｉ－Ｆｉネットワーク環境があり、そういった会議室スペース等々もあるといったものがイメージはしやすいのかなと思っている。
- その中でいくと、やはり北杜市の最近の取り組みだとかその辺りお伺いできるとありがたい。

青柳委員

- 割り込んで申し訳ないが、観光業でいうと、この３連休、甲府市内の甲府ホテル旅館協同組合については、もうほとんど満室状態であった。密を控えてくれ、連休は休んでくれ、という時でもこの状況であり、ポテンシャルはある。
- 甲府市だけではなくて、山梨県としてポテンシャルがあるので、来てくれる人はたくさんいると思う。それをどう活用するか。
- シェアハウスでもいいし、空き家を活用したようなものも一つかなと思っているが、統計を取ってみると、今週末もほとんどホテルが甲府市内は満室である。山梨県に来る人は多い。
- なぜ来るかというと、私の経営するホテルでは、レンタルサイクルを貸し出しているが、それを使って、武田神社、善光寺、昇仙峡等に行く。電動自転車なので、全然行ける。だから、そういう魅力を発信しつつ取り組むというのもいいとは思うが、甲府市ではどうか、というのが正直な意見。

丸山座長

- まさに今、紅葉の季節なので、県外から来られる方も、おそらくいらっしゃるということかと思う。自治体の方々、他にはいかがか。
- 最近ワーケーションだけではなく、こういった県外からいらっしゃる方が増えている、こういったニーズをお伺いすることがあるというようなお話があれば、伺いたい。

望月委員

- 身延町は下部温泉郷や身延山の宿坊があるが、下部温泉郷の方では、ワーケーションを目的にみえられているという話はまだ大きくは聞いていない。
- 宿坊については、ワーケーションに取り組んでいるところもあり、そちらでは主に仕事をメインで来られる方が多く、大変集中できて仕事がはかどるといったような事例が聞かれる。

丸山座長

- 念のための確認だが、下部温泉エリアにおいて、お仕事でいらっしゃる方が増えているということか。

望月委員

- 下部温泉郷ではなく身延山の宿坊である。そちらで、取り組んでいる事例があるので、そちらを利用されている方が多いということを聞いている。

朝比奈委員

- 富士河口湖の方でも、秋の紅葉シーズンで、３連休、その前の土日は非常に道路も混雑しており、身動きがとれないような状況が続いていた。
- そういった意味では、やはり自分たちは観光の地域で、道路事情もあって、田舎でのんびりというところが、向いていないのではないかという気はする。
- また、企業誘致については、企業側に対してメリットがどれだけあるのか、どれだけ需要があるのかというところをまだまだ検討しなければならないのではないかと思う。

小林委員代理　田中氏

- どこで推進するかというところで、北杜市がいいのではないかということだが、先ほど青柳委員がおっしゃられたように、インフラをどうするか、管理をどうするか、交通はどうするかといった部分が非常に不安。
- 別荘がたくさんある地域であり、インターチェンジの近く等、非常に混雑するところが多いエリアなので、その点も不安。

・　企業誘致の面と、雇用の面については、それぞれ産業観光部内で取り組んでいるので、どんなふうに企業誘致をしていて、ＰＲの際には市の政策とかもＰＲできるのか、先ほど朝比奈委員がおっしゃられたように、ニーズがあるのかといったことも知りたい。
・　不安な部分もあり、前回も申し上げたように、民間の方、LIFULL さん等が取り組んでくださっているので、こういう力を借りる方法が一番ありがたいと思っている。

山形委員代理　土屋氏

・　あまりワーケーションに対して、先進的な取り組みというのは特に目立ったことはやっていないが、石和温泉郷については、昨年までインバウンドの宿泊の方が大多数だったので、コロナ禍の中で大きな打撃を受けている。
・　今後、インバウンド等も期待があまりできないということもあるので、ワーケーション等を受け入れていきながら、取り組みができればと思っている。まだまだワーケーションについての意識が薄いというところもあるので、今後も皆さんの意見を聞きながら、取り組んでいければと考えている。

丸山座長

・　まさに、各地域これから取り組んでいきたいというお話を伺ったが、二拠点居住地を推進していく地域について、民間のオブザーバーの方々で、今現在お問い合わせが多いエリアというか、このエリアが多かったという感触があれば最後に伺いたい。

オブザーバー　山口氏

・　我々がおつき合いしている都市部の企業や、パソナ JOB HUB にご登録いただいているフリーランスの方、いわゆるノマドワーカーと言われるようなどこでも仕事できる方等のデータベースを３万人ほど保有しており、個人でワーケーションされる方のお話も聞くことが多いが、やはり観光地が１つのメインの目的になる方はいらっしゃる一方で、言い方に語弊があるかもしれないが、地域は実はどこでもよくて、そこの地域で、自分たちが何を得られるのかというところを気にされる方がすごく多い。
・　例えば、企業でワーケーションに行かれる地域を決める際は、その地域で従業員が何を学べて、何を得られて、自分たちの会社にどう還元できるのかというストーリーが１つのポイント。
・　また個人の方も、先日、田中委員にもご登壇いただいてイベントを実施した際に、約 400 人の方にアンケートを実施したが、どのようにワーケーションを活用していきたいかという質問に対して、約 80%が地域課題・社会課題の理解を深めたいと答えていた。

・　おそらく、この地域を選定する皆様のマインド、気持ちは、その地域にどのようにしたらディープに関われるのかという部分が実は一番関心が高いのではないかとアンケート結果を拝見して思った。

オブザーバー　北辻氏

・　山口オブザーバーの発言に重複してしまうが、観光と違って、エリアについて、この場所がいいというのはあまり感じていない。
・　どちらかというと、行く目的をどのように設定するかの方が大事ではないか。
・　目的はそれぞれだが、観光要素が強ければロケーションという話になるし、この人に会いたいという、人という要素が割と大きく占めるのではないかという仮説を我々は持っている。
・　やや話は変わるが、我々はワーケーションができる拠点を 11 カ所運営しているが、これを 100 拠点にしようと考えた時に、場所を選定するときには、まさに今のお話と近いと思うが、我々の会員や、我々にご興味を示してくださっている企業が、目的を持って行きたいなと思っていただけるような場所を考えている。
・　この人に会いたい、この場所に行ってみたい等、どこにターゲットを置くかというところは、家族がいる二拠点なのか、フリーランスではなく企業に勤めているから二拠点なのかとかで変わってくるのではないかと感じている。

【意見交換②　新たな企業誘致につなげるためのワーケーションの推進について】

丸山座長

・　北辻オブザーバーも山口オブザーバーも、まさにどちらかというと観光とはまた違った切り口でどのような目的であったり、得られるものを企業であったり個人の方にアピールしていくかという観点からのご発言であったので、どちらかというと、逆にいろんな地域に可能性があるというか、まさに非常に山梨県全土に対して言えるのではないかと感じた。
・　前半の中でも話があったが、企業誘致、サテライトオフィス等につなげるためのワーケーションについて、ぜひ議論させていただきたい。田中委員から、一言ご意見をいただければと思うがいかがか。

田中委員

・　サテライトオフィスのような新たな企業の誘致と二拠点居住はかなり近い関係にあるのではないか。
・　コロナ禍でリモートワークが急速に広がる中で、東京にオフィスだけ設置して、かなりリモートワークの比率を高くしていくという企業もある。更に、オフィス自体もわざわざ東京にそのまま設置しておく必要性が薄くなり、東京にすぐに行ける大月市

や峡東地域、あるいは山梨県全域で、どこかにオフィスを設置しようという動きが出る可能性もある。

- このようになると、月に１回か２回は東京に行きつつ、山梨で東京の仕事をするといったタイプのバーチャル企業誘致につながる。こうした中で、リアルとバーチャルを組み合わせた新しい企業との雇用や仕事の関係が生まれ、結果的に二拠点居住推進につながる可能性がある。
- 今後、ワーケーションから二拠点居住へという流れの中で、都内に自宅のある人が、山梨県内にも拠点を設けて、必要があれば都内の自宅にも行くが、日常は山梨で過ごすというライフスタイルに徐々にシフトしていくという状況も生まれてくるのではないか。
- もう一つのキーワードは「複業」。
- 「複数」の「複」ということで、山口オブザーバーからも意見があったが、都心で普通に仕事をしている人が、地域貢献や地域課題の解決に関心を持つ中で、物理的に山梨に来ることもあれば、オンラインで行き来することもあるのではないか。いろいろな組み合わせの中で、面白い人たちが集まって来ているとか、いろいろな新しいビジネスが生まれそうだということになると、徳島県の神山モデルのようなイメージで、結果としてそういうところにサテライトオフィスがさらに進出しやすくなってくる。
- 山梨県の場合は、さらにその先にリニア開通という圧倒的な強みがあり、仕事、二拠点居住、そしてその中間にあるワーケーションについてディスカッションすることが有効と考え、このようなテーマを事務局と設定した。

リニア未来創造推進課長

- 我々としても、二拠点居住については、いわゆる個人としてどうやってワーケーションに来ていただくかという部分と、今議論になっている企業としてサテライトオフィス等の形で来ていただくかという部分があるかと思う。我々も情報収集等する中で、情報通信業や不動産業等の企業は、非常にテレワークの実施率も高く、ニーズも高いのではないかということもある。
- 実際、企業の中には、福利厚生の１つとして、優秀な人材を集めるためにワーケーションを認めるところもあるとの報道もあるが、そういった動きや、企業のＢＣＰ対策としてのサテライトオフィス等の観点から、最近のトレンド等について、教えていただければありがたい。

丸山座長

- たびたびとなるが、最近の民間企業の動向について、オブザーバーの方々、いかがか。

オブザーバー　小林氏

- 皆さんのお話にも出ていたが、我々の方では、福利厚生に加えて、評価について申し上げたい。
- 今までの評価制度は個人的な評価制度となっていたので、片やオフィスで仕事をしている方と、ワーケーションしながら仕事をする方の評価の制度をどのように整備していくかというところが大きな問題となる。
- 実際、インフラの部分については、かなり整備が進んでいるので、出退管理とかそういう部分については、どこの場所でも、ここからが仕事、ここからが休暇、ということはできるのだが、一番の問題は評価の部分とか、休暇を取れるチャンスができるということで、田中委員の話にもあったが、評価をどういうような形で査定していくかということが、管理する企業側の課題になっているということが我々の調査内容では出ている状況。

丸山座長

- リモートワークとつながるところもあるかと思うが、リモートワークやワーケーション拠点、二拠点居住が進んだ時の管理、評価、人事評価をどのようにするか、成果をどのように計っていくかという論点が生まれつつあるというご意見であった。

オブザーバー　大川氏

- 個人的には、二拠点居住につなげるワーケーションについては、先ほどからお話が出ている企業よりも、やはり自営業とかフリーランスの方とか、それから山口オブザーバーがおっしゃっていたようなところをターゲットにしつつ、整理をしていくのが一番まずは早いのではないかという気はしている。
- やはり企業はなかなか、特に大きい企業になると、例えば我々ＪＴＢも実はほとんど実施していないという現実が今はあって、これからどんどんとハードルが下がってくると思うが、推進をしていくスピードということで考えれば、フリーランスの方がいいと思っている。
- 先ほどからも幾つか出ているが、フリーランスの人とか、自営の方とかという方がもっと現地にどんなことを求めるかというのは、私どもの中でもいろいろと話が出ていたのだが、地元の方との交流とか、そこでしか味わえないことという話も結構あったので、ぜひ、そこにいらっしゃる方々とコミュニケーションが取れるような機会を増やすということがいいのではないかと個人的には感じている。

丸山座長

- まさにそのフリーランスであったり、個人事業主の方、ここはもうかなりターゲットになってくるのではないかといった話で、先ほど山口オブザーバーから伺った話で、

一番求めているところが地域課題への理解であるという点について、非常に個人的に興味深いと思っていて、その話をぜひ伺えるとありがたい。

・　その人は、例えばどういう人との出会いを求めてられて来るのか、どういった機会を具体的に、より求めているのかという話がもしあれば、お伺いしたい。

オブザーバー　山口氏

・　2018 年からワーケーションの実証事業を担当させていただいている中で、参加者の企業の方もしくは個人で参加された方から多く聞かれる「こんな方に出会いたい」というところは、大きく分けて２つあると思っている。

・　１つ目が、地域にずっといらっしゃって、その地域のため人とか地域貢献を視野に入れた事業を展開されている経営者の方、地場企業の社長さんとの出会い。２代目、３代目の経営者になると、先代からいいところは引き継ぎつつ、新しいイノベーションを起こしていきたいという意欲のある方が結構いらっしゃる。こういった経営者の方々と出会うと、先ほど田中委員からの話にもあった通り、複業に繋がっていくような、出口の戦略にもなっていくので、より関係人口とか、ワーケーションによる移住等の促進に繋がっていくかと思う。

・　２つ目が、先に移住をして、例えば移住先で起業や地域活性に関わっていらっしゃる方との出会いを求められているケースが多いかと思っている。

・　この２パターンの方々を、我々はローカルイノベーターという形で呼ぶこともあるが、そういう方たちとの出会いの他、地域のおじいちゃんやおばあちゃんと、挨拶程度でもお話をすることによって心がちょっと安らぐ、心が救われるという経験をされる方もかなり多い。イノベーターばかりに会いすぎると重くなってしまって、おじいちゃんやおばあちゃんにほんわかと会えるような機会の創出も、すごく今求められているのかなと思っている。

丸山座長

・　まさに複業に繋がるような地場企業の社長の方々、まさに地方への移住を考えている方であれば、その先輩になられるような方との出会いを求め、加えて非常にローカルな方との心のふれあいを求める方もいらっしゃるというご意見であった。

佐藤委員

・　サテライトオフィス等の企業誘致につなげるということで、改めて本日の資料を見ると、資料２のＰ１の中にオフサイトミーティングは今後非常に重要な取り組みになる可能性があるという文言が入っていた。

・　やはりサテライトオフィスというのは企業単位なので、個人的に資料２のＰ１に掲載されている田中委員のワーケーションの４類型が非常に好きなのだが、このうち

４のパターンからサテライトオフィス化という形になっていくと思う。

- とすると、やはり一番やりやすいところ、簡単にできるところは、山梨県内に進出している企業を持っている地域で、例えば工場とか、そういうところの従業員と本社従業員が、オフサイトミーティング等の形で、山梨県内に来てミーティングするという形になると、企業理論のメリット、効率、いいものができるという結果がついてくる。
- そうなれば、山梨県内にサテライトオフィス等があった方が良いと考えるようになる可能性もあるし、例えば、特に研究グループ、営業グループといった形であれば、作りやすいのではないか。
- そういうことを考えると、先ほど、甲府市内では難しいというお話もあったが、サテライトオフィス的に言えば、甲府市内にも作りやすい。
- ワーケーションとは意味が違うかもしれないが、サテライトで働きながら、ということは甲府市内でも笛吹市の石和でも、企業がたくさんあるので、逆に可能性は増える。
- 例えば国母工業団地であったり、韮崎市内や南アルプス市内にもそのようなところがある。
- そのようなところであれば、企業型アプローチのオフサイトミーティングの積極推進からしていくと、サテライトオフィスという形で、企業の部分誘致みたいなことにつながるワーケーションができると思うので、そういうアプローチを、自治体が来ている企業に積極的にしていくと、増えるのではないかと感じた。

田中委員

- 二拠点居住推進部会での議論や、不動産業界でのバックグラウンドを踏まえ、ワーケーションを二拠点居住あるいはサテライトオフィスの誘致等につなげるという点から、個人的な意見で結構なので、丸山座長が考えるワーケーションの役割や期待について、ぜひお聞きしたい。

丸山座長

- 元々三井不動産に所属しており、今は東京大学に出向し、東大発ベンチャーの研究等を行っているが、昨年来より山梨県のいろいろな会議に出席させていただいている関係もあり、個人的なものもあるが、話をさせていただければと思う。
- やはり二拠点居住であったり、ワーケーションの話もあったが、山梨に来ていただいて何を得るかといった話だが、個人的に東京には住んでいるものの、山梨県であったり、甲府エリアの方でのアンテナは常に張っている。非常に５、６年ぐらい前から、甲府の中心街の再活性化が進んでおり、特に 30 代後半から 40 代の方々が、Ｕターン、Ｉターンで戻っていらっしゃって、小さい飲食店を経営されたり、ホステルを経営されたりといった動きがあり、加えて、発酵に関しては、東京都内の雑誌にも掲載されるようなレベルの様々なタレントの方々が集まってきていると甲府中心、並び

に山梨県全体で非常に多く感じている。

- やはり世の中の流れが、大きいマクロな話にもなるが、今までの大量消費の時代は終わり、どちらかというと、人々が日常を消費する食事とか、身につける衣類とか、いろいろなものに対して、商品の後ろにあるストーリーであったり、誰がこれを作っているのかとか、どういった背景でこのプロダクトが生まれているのかというようなストーリーを求める時代に、徐々に変わってきていると個人的に感じている。それはＳＮＳの進展であったり、個人が発信するような時代になってきたといった背景もあるが、そのような時代になって、山梨は非常に強みが、多くあるエリアだと感じている。
- 特に発酵については、非常にローカルなので、山梨の風土でないと生まれないワインであったり、地酒であったり、みそであったり、ここでしか味わえない、それを作られているここにしかいない人がいるといったところのかけ合わせになってくると、山梨に行って、昼間は仕事をして、夜はその人たちと一緒に、その人たちが作ってくれたクラフトビールであったり、ワインも、いろいろな住まいを探しているといったような人との出会いもあるし、その土地でしか味わえないものが非常に多くあると、地元贔屓もあるかもしれないが、非常に感じている。
- 山口オブザーバーの話にもあるが、やはりいろいろなタレントの方々がそろっているエリア、可能性があると感じている。

田中委員

- 丸山座長の意見を聞き、山梨県のさまざまなポテンシャルを実感。
- 二拠点居住推進にあたり、都内在住者のライフスタイルを想像することが必要と従来から考えている。満員電車による通勤等、都内のストレスフルな環境で暮らしている人に対して、山梨県としてどのような価値を提供できるのかというマーケティングを行うにあたり、どのような業種・年代の人を対象とすべきか等、さまざまヒントをいただけた。

青柳委員

- 私が経営しているホテルは、甲府駅前に立地しているが、通勤なさる方がいらっしゃる。始発電車に乗って、中央線の特急で行かれる方もたくさんいらっしゃるが、実家があるということも確かにある。
- レンタサイクルについて、甲府市の委託を受けて行っているが、武田神社や昇仙峡等に行くとか、お墓参りに行くとか、そのような方もいらっしゃるので、そういうターゲットを、捉えた方がいいのではないかと思った。
- 丸山座長の発言にあったストーリー、ワインがあったり、地酒があったり、味噌があったりといったストーリーは、旅行業界が作っていかなければ駄目。我々が作って、

それをのっけていくしかない。

オブザーバー　大川氏

・　そのように思う。

青柳委員

・　ストーリーは我々が作る。その他の下地を、いかに二拠点で住んでいただく形を作っていくかということはまた違うことかと率直に思う。

オブザーバー　北辻氏

・　個人的な感触かもしれないが、サラリーマン、会社員であったとしても、個人、個々にフューチャーされる時代になったととても感じていて、先ほど田中委員からも複業という話があったが、地域で複業を行うというような関わり方は、今後出てくるものと思っている。また、企業としても、今回、まさにパソナから山口オブザーバーが参加されているが、パソナの子会社の社長さんが全国にたくさんいらっしゃる。
・　グループ会社の社長さんとか、我々も会社の中のグループの中の子会社がどんどん出てきているが、例えば山梨県内で創業してみないかという動きはあるのではないかと思っている。今、新規創業をアントレプレナーという形で呼ばれる自治体は多いと思うが、企業内のイントレプレナーという形の支援というのはあまり聞いたことがなく、LivingAnywhereCommons という場所があるというところで、新規事業開発室の人間とか、新しい創業をするとなると、東京にいるよりもローカルでいろいろな現場の人たちと会って話すと新しいアイディアが生まれるという声は伺っているので、アイディアを持って東京に帰るのではなくて、アイディアを実際に県内で生かしてやってみるというところまで取り組んでみるとか、そういった切り口は、複業という以外にも、面白い形ではないかと個人的にも思っている。

丸山座長

・　まさにイントレプレナーに関連して、三井不動産も、社内の新規事業提案制度で、ブドウ事業を提案した先輩がいて、北杜市でグリーンカラーという株式会社を作り、実際に圃場を今開拓している。
・　特に佐藤委員から発言があったように、オフサイトミーティングをフックに、その後、サテライトオフィスとかにつなげていくということであれば、甲府エリアから石和エリア、今現在交通の便がいいエリアというのも、非常に考えられるのではないかという話もあったが、オフサイトミーティングがどれぐらい山梨県の行われているかという点について、観光資源課長からご説明いただけるとありがたい。

観光資源課長

- オフサイトミーティングについては、それぞれの企業で行っているという話は聞いているが、実際にどのぐらいあるのかということは、申し訳ないが、把握していない。
- ワーケーションについては、観光地で行う事業については、当課の方で実施させていただくが、先ほど田中委員がおっしゃったように、副業というキーワードをいただき、今回ワーケーションに取り組むにあたり、様々な体験プログラム等を作っていこうとも考えている。
- その中で、やはり山梨県においては兼業農家も非常に多く、農業等の体験をしていただいて、それが副業というところまでいけばいいが、就農等につなげるような取り組みも入れていきたいと考えていて、本日は参加者の皆様のご意見が非常に参考になった。

オブザーバー　山口氏

- 先ほど北辻オブザーバーもおっしゃっていたように、個の時代になり、個人にフォーカスが当たるというところで、今、様々な移住を検討されている方とかワーケーションに興味関心がある企業、個人と話をさせていただく中で一番感じているのは、今までの旅は、消費型観光というか、観光地で見て、物を買って帰ってくるという消費がメインになっているという点。
- それをワーケーションにも適用してしまうと、かなり地域も疲弊してしまって、参加者の二拠点居住に繋がらなかったり、移住に繋がらなかったり、産業振興に繋がらなかったりというところがあると思う。
- おそらく、これからのキーワードは生産と思っていて、旅で、自分で何かを生産して帰ってくる。そうすると地域も疲弊することなく、旅に行く人たちも、地域への愛着が持てるストーリーをつくりやすくなると思っていて、先ほどの発言の中で、農業の体験をすることも、もちろんすごくいいと思っているが、使えば農業体験も、用意されているものを、体験をするという消費型ではなくて、その体験を通して自分がどうこれから農業に対して関われるのかというところを旅人が生産できるようなストーリーや仕組みがあると、関係人口とか会社での副業のようなところに繋がりやすくなるのではないかと思っていて、キーワードとして北辻オブザーバーもおっしゃっていたが、生産ということをお伝えしたく、発言した。

【意見交換③　観光地の再活性化につなげるためのワーケーションの推進について】

丸山座長

- 生産というキーワードは非常に面白いと思う。そのエリアで、自分で何かすることによって、生み出すことができるというのは、非常により前向きなとらえ方ができると考えている。

・　最後に観光地の再活性化につなげるためのワーケーションを推進するにあたり、必要となる具体的取組について意見交換をしたい。まず、田中委員から一言ご意見をお伺いしたい。

田中委員

・　最近興味深いと感じた事例が、富士吉田市における LivingAnywhereCommons の取り組み。コワーキングスペースを中心として、その周辺にゲストハウスやいわゆる御師の時代からの歴史がある宿泊施設があり、まち全体で、コワーキングスペースも宿泊施設もあるという面でとらえたような取り組みが行われている。都内でも、例えば谷根千の辺りでこういった取り組みがあるが、山梨県にもできつつある。
・　温泉地で長期滞在をするという文化はもともと日本にあり、それを再考する視点もある。し、長期滞在時に、エリアで捉えて、宿泊施設から外に出て、町歩きをして、人々と交流するという試みも次の可能性として考えられる。
・　長野県では、「リゾートテレワーク構想」というコンセプトでワーケーションに取り組んでいて、白馬村には、スキー場エリアの中に、非常に魅力的なコワーキングスペースが２カ所ほどあり、長野県の補助により、無料で使用できる。
・　そこには、朝からスキーを楽しみ、昼食前にはスキーをやめて、そこからビジネスを始めて、午後も仕事をしつつ、いろいろな人と交流をするという滞在スタイルがある。このように、仕事と観光をクロスして、そこにいる人、地元の人、旅人同士の交流を楽しむということをレバレッジにした観光地の活性化もあるのではないか。
・　本日は、観光の専門の方や観光地の市町村の方もいるので、さまざま意見をお聞きしたい。

丸山座長

・　まさに田中委員のお話にあったように、働く×その個のエリアでの体験で、例えば、町全体で宿泊、レジャー、体験といった要素も補うことによって、ワーケーションの舞台として各エリアを活性化していくということかと思う。
・　特に山梨の場合、すぐに思い浮かぶのが、先ほど話のあった農業体験とか、林業体験とかだが、そのようなところをフックに、考えていくということもあるかと思う。
・　田中委員の話にあったような体験×ワーケーションという視点でご意見を伺いたい。

観光資源課長

・　先ほど申し上げた通り、ワーケーション導入の事業を進めさせていただくが、事業の内容としては、前回も説明しており、繰り返しにもなるが、先ほど田中委員からも話があったが、観光地としては、今回ご出席をいただいている市町村を候補として進めていこうと考えている。

・　まず宿泊施設等にＷｉＦｉであるとか、ワーキングスペースを作るにあたって、必要なものに対して補助を行う。そして、田中委員の話にあったように、面ということで考えて、その周辺でどういった活動ができるのか、先ほど申し上げた農業体験であるとか、山梨はいろいろな自然もあり、山に囲まれており、山を使った山岳観光も非常に活発にされているので、そういったことを組み合わせながら、ワーケーションとしてどういったことができるか取り組んでいきたい。

青柳委員

・　先ほど山口オブザーバーもおっしゃっていたが、体験型の滞在は魅力的と思う。
・　例えば、週末になったら農業体験ができるとか、乗馬ができるとか、今の時期だけだが、紅葉狩りができるとか、そういう形でも全然誘致できるのではないかと非常に思った。
・　田中先生がおっしゃった点と面という考え方については、やはり面で見ていかないと人は増えていかないと思うので、面で見ていって、北杜市、身延町、富士河口湖町それぞれ施策を練っていけばよいのではないかと思った。

望月委員

・　下部温泉郷があり、そこで仕事をして、体験といったところになると思うが、近くはないが本栖湖の西岸で湖と戯れるとか、ＳＵＰをするとか、そういうことも考えられるし、例えば下部温泉の近くには下部川という河川が流れていて、釣りを楽しめるところもあるので、そういった体験を含めたワーケーション推進を考えていけるのではないかと思う。

丸山座長

・　いろいろな山梨ならではの体験を一緒に展開するという視点のご意見であり、山梨の観光を再活性化していくというところも非常に重要な観点と思う。

オブザーバー　北辻氏

・　田中委員からご案内のあった LivingAnywhereComonns 富士吉田については、コワーキング施設を中心として、ゲストハウスで、いくつか宿泊できるという形で提案させていただいた。
・　コンセプトとしては、町にワーケーションに来るという形で設計した場所であり、１つはそのあり方はあるのではないかと思っている。
・　もう１点は、通信の環境がしっかりどこでも繋がる形で整っていれば、既存のお楽しみ、レジャーをそのまま接続することは可能なのではないかと思っている。
・　私自体も今パソコン 1 台持って仕事している身であり、やはりＷｉＦｉがちゃんと

飛んでいるかどうか、仕事ができるかどうかだけなので、そこでレジャーをしながら仕事をするということは可能な環境になってきている。

・　そうなった時にもう１つが、ズーム会議ができるかとか、情報遮断、いわゆる個室があるかというところは我々も一つ課題になっているところで、そういった環境を、電話ボックスみたいなものでもいいので、町にあるというところがわかれば、楽しみさえあれば、逆に言うと集まってくるという認識があって、逆に合間合間で仕事をするという、従来のアメリカ型のワーケーションに近いスタイルもありうると感じている。

オブザーバー　小林氏

・　個人的にいろいろと山梨県内を視察する中で、まず北杜市方面で１つ感じたのは、清里地区がかなり寂しい状況になっている反面、少し先に行った小淵沢は、すごくにぎわっているような感じがある。同じころに開発されてきて、いろんな意味で広がってきたのに、この差が出ているのは何かということを考えたときに、自然を生かした小淵沢の戦略がすごくよかったのではないかということを個人的に感じた。

・　夜空を見て、先ほど、いつでもＷｉｆｉが通じるという話が出たが、夜空を見られるような環境を配信できるような場所ができている。小淵沢の、自然の中で楽しめることと、必要なものが近くで手に入るというものが、非常にいい形で、皆さんに受け入れられてきたのではないかと非常に感じた。

・　先ほど望月委員が話したように、身延山の宿坊においては、個人のスペースの確保や、ズーム会議ができる環境づくり等も考えているという話を聞いたが、それは同じように、下部温泉でもできると思うし、その他のエリアでも、空いてしまっているスペースを、個人的に使う形を構築していけば、すごくいいのではないか。

・　宿坊では、精神的に非常に落ち着いたことを強く覚えている。都内の企業の人事関係の部署の方からも、心のケアをするのにワーケーションはいい利用ができるのではないかということでご意見をいただいている。

・　こういった部分が重なってくると、いい環境づくりができるのではないかと感じており、それを観光地の再活性化という形で取り組めば、非常に進んでいくのではないかと個人的に考えている。

オブザーバー　大川氏

・　これまでの議論の中で、北杜市や身延町の話題が出ていたので、私からは、笛吹市の石和について、お話をさせていただくと、石和は、昔は団体のお客様が本当に大量に来て、非常に栄えてきたところで、今、コロナ禍の中で、大変な思いをしている旅館の方もいっぱいいらっしゃる。

・　石和は非常に観光地・温泉街でありながら住民の方々が非常にまじっている特殊な

地域と感じていて、それを逆手にとって、温泉と都市型ワーケーションといったコンセプトを持てば、面白いのではないかと実は感じている。

- 例えば、温泉街の中には、潰れてしまったスナックや空き家になっている場所も結構あるので、そのような川沿いの一帯を全部コワーキングスペースに作り替えて、そこで仕事をしつつ、実は温泉指導員も結構たくさんいるが、温泉に入りつつ、農業の体験もしつつという形を、合意形成が難しいということは理解しているが、町全体で取り組むという姿勢ができれば、ワーケーションに参加したいと思って来てくれる人たちの意識を高めることにもつながるのではないかと思っている。
- 先ほど話したコワーキングスペースでの仕事については、いろいろなところからワーケーションに来ていれば、そこでいろいろなコミュニケーションを図ったり、また地元の方々とのコミュニケーションを図るような機会を作ることもできるのではないか。
- 例えば、温泉旅館で寝泊まりをしつつ、お風呂はいろいろところで入れるとか、バンケットルームもたくさんあるが、特に昼間は稼働していないことも多いので、そういったバンケットルームを使ったセミナーとか、全体として、いろいろな形でできるのではないか。
- 一軒一軒で取り組むのではなくて、温泉街全体が一つの旅館といったイメージでコンセプトを作ると面白いことができるのではないかと感じている。

以上